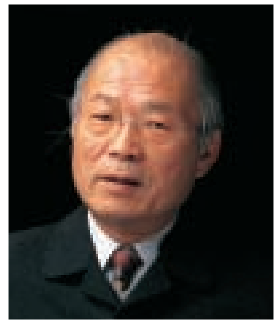
# 平成13年度進路レポート

## ▼愛知淑徳大学



進路支援センター所長
犬飼昭式

愛知淑徳大学の平成13年度の進路状況、また進路支援体制について、進路支援センター所長の犬飼さんにお話を聞きました。まずは就職決定率から。

「平成11年度は93・5％、12年度は95・3％。13年度は3月上旬現在で86％で、最終的には90％を超えると思います。全国平均に比べれば高い決定率だといえますが、超氷河期の時代にあって、センターの役割はますます重要になりますね」

進路支援センターは、進路に関して支援体制を明確化し、学生サポートをより一層充実させるため、従前の就職課を一新して1995年にスタート。以来、多角的な支援プログラムを構築し、成果を上げてきました。学生一人ひとりの潜在能力、可能性を最大限に引き出すとともに、現代社会への適応能力を高め、社会的な自覚を促そうと努めています。

犬飼さんは、「現在は、進路に関しての意識をどれだけ早く目覚めさせるかが問題です」と指摘します。

具体的には資格取得などの講座の開講（左参照）。平成9年度から始まり、今年度は4講座増えて28講座になる予定です。講座数は全国でも2、3番目の多さ。講師は専門学校から派遣され、学生は通常の半額以下の受講料で学ぶことができます。複数受講する学生も多く、平均90％前後の高い合格率を誇ります。

「合格した資格は履歴書に記入できるので、企業が学生を見る目も違うし、何より学生自身が頑張って資格を取得したという自信を持ちます。これは大事なことですよね」と犬飼さん。

さらにキャリア教育（下参照）を14年度からスタートさせるにあたり、「就職活動の時期になってから将来のことを考えるのではなく、入学時から将来設計を考えられるようなステージを用意し、学生のエンプロイアビリティ（雇用、採用される能力）を高めます。企業で用いられるマネジメントサイクル『PDC（プラン・ドゥ・チェック）』を採用し、自分の適性を見極め、自己責任によりライフプランを構築できるようサポートします」と、意欲と自信を見せてくれました。

4年ほど前からインターンシップにも取り組んでいます。春と夏の長期休暇に、春は約10名、夏は約50名の学生を様々な企業に派遣しています。「万全の体制を整えているので、あとは学生がそれに乗ってくれれば、さらに就職決定率は上がると思います」と、犬飼さんは話してくれました。

### 対策講座一覧

**▼資格取得対策講座**

01.一般旅行業務取扱主任者試験対策講座
02.日商簿記検定3級受験対策講座
03.社会保険労務士養成講座
04.HBA資格認定制度受験対策講座
05.話しことば（2級・3級）検定対策講座
06.パソコン検定（P級）3級・4級試験対策講座
07.情報処理活用能力（J検）準2級・3級試験対策講座
08.初級システムアドミニストレータ試験対策講座
09.MOUS（word）試験対策講座
10.MOUS（excel）試験対策講座
11.実用英語技能検定（準1級）対策講座
12.実用英語技能検定（2級）対策講座
13.実用英語技能検定（準2級）対策講座
14.ビジネス能力検定2級試験対策講座
15.ビジネス能力検定3級試験対策講座
16.販売士（小売商）検定3級試験対策講座
17.秘書技能検定2級試験対策講座
18.貿易実務検定C級試験対策講座
19.ファイリングデザイナー
20.ファイナンシャルプランナー
21.金融渉外技能審査（全財FP）
22.行政書士
23.カラーコーディネーター
24.宅地建物取引主任者

**▼業界別講座**

01.公務員試験対策講座
02.マスコミ業界講座
03.航空業界講座
04.広告業界講座
05.外資系企業講座

**▼就職試験対策講座**

01.企業就職試験対策集中講座
02.よく出る時事・面接・マナー就職直前対策講座

### キャリア教育と進路支援ガイダンススケジュール

**1年生春** → **2年生秋** — キャリア教育

- 自己理解①「自己発見レポート」—適正テスト—
- チャレンジスタート「PDCサイクル立案」
- 自己理解②「自己プログレスレポート」—適正テスト—
- 自己理解③「自己を知る—自己分析」—体験学習—
- 生き方「働く意味」—講演—
- 社会・一般常識①「世の中の動き、政治と経済」—講義—
- コミュニケーション①「対人関係—チームワーク」—体験学習—
- 自己理解④「自分で選ぶ、自分で表現する」—体験学習—
- 社会・一般常識②「労働法規、給与、税金」—講義—
- コミュニケーション②「組織と意思決定」—体験学習—
- 「PDC—振り返りと新たなPへ」—講義・実習—

**3年生夏** — 進路支援ガイダンス → 就職活動開始

- 7月初旬　就職活動基礎論（就職活動の全体像）
- 7月中旬　第1回就職実践模試　第1回就職適正検査
- 7月下旬　実践模試・適性検査 フォローガイダンス
- 10月上旬　時事問題研究「新聞活用」
- 10月中旬　業界研究1
- 10月中旬　業界研究2
- 10月下旬　自己分析
- 11月上旬　自己PR作成（基礎）
- 11月中旬　自己PR作成（応用）
- 11月中旬　エントリーシート攻略テスト
- 11月中旬　マナー研究
- 11月下旬　4年生就職活動体験発表
- 12月中旬　面接ケーススタディ
- 1月中旬　就職活動スタート宣言
- 2月下旬　第2回就職実践模試　第2回就職適正検査

## ▼愛知淑徳高校

進路指導部長
島田智子

進路指導＝受験指導と考えられがちですが、決してそうではありません。「進路を考える」ことは「生き方を考えること」であり、生徒たちに自分の能力や適性・興味・関心を見つめさせ、自分の将来像を具体的に描かせていくこと、その上でその実現のための学力を育てていくことだと考えています。担任による日常的な細やかな働きかけはもとより、「卒業生に聞く会」「進路講演会」といった行事を通して、あるいは教師の側から様々の情報や知的刺激を提供していくことによって、生徒たちに自分の進路について考える機会を与えていきたいと思います。

今春の卒業生の進路状況を見てみましょう。愛知淑徳大学へは79名が内部推薦で進学、その後の一般受験で57名が合格し、最終的に100名が進学しました。内部推薦を希望する生徒が減少する傾向にありますが、これは進路希望の多様化と大きく関わっており、愛知淑徳大学にない学部学科を希望する生徒、理系志望の生徒の増加によるものと思われます。

外部受験の合格状況の一部は別表のとおりです。長引く不況で国立大学の人気が依然として強い中、今年の国公立大学の合格者総数は83名でした（昨年87名）。生徒数が昨年より30名ほど少ないことを考えれば、数の上ではまずまずの結果といえますが、地元の名古屋大学への合格が大幅に減ったことは今後の対応が求められているといえるでしょう。表にはありませんが、金沢大学、東京外国語大学にそれぞれ3名、一橋大学に1名の合格がありました。

私大の入試は全体には易化傾向が続いていますが、いわゆる難関校は必ずしも入りやすくはなっておらず、私大の二極分化はますます進んでいます。本校の生徒が希望する大学のレベルは高く、生徒たちは粘り強くよく努力しましたが合格数での大きな伸びは見られませんでした。

薬学、医学、看護医療、工学など理系の進路希望者への対応など課題は多いですが、生徒たちの希望が実現するよう、できる限りサポートしていきたいと考えています。

**国公立大学**

| 大学名 | 2002 | 2001 | 2000 |
|---|---|---|---|
| 名古屋大学 | 5 | 14 | 11 |
| 名古屋工業大学 | 2 | 4 | 6 |
| 愛知教育大学 | 9 | 7 | 8 |
| 愛知県立大学 | 13 | 2 | 6 |
| 名古屋市立大学 | 9 | 11 | 8 |
| 岐阜大学 | 10 | 10 | 5 |
| 三重大学 | 3 | 3 | 8 |

**私立大学（関東）**

| 大学名 | 2002 | 2001 | 2000 |
|---|---|---|---|
| 早稲田大学 | 8 | 18 | 14 |
| 慶応大学 | 4 | 5 | 7 |
| 上智大学 | 6 | 5 | 6 |
| 立教大学 | 12 | 7 | 10 |
| 青山学院大学 | 6 | 8 | 11 |
| 中央大学 | 9 | 11 | 13 |
| 明治大学 | 10 | 6 | 5 |

**私立大学（愛知）**

| 大学名 | 2002 | 2001 | 2000 |
|---|---|---|---|
| 愛知淑徳大学 | 136 | 155 | 158 |
| 南山大学 | 113 | 155 | 90 |
| 名城大学 | 32 | 43 | 33 |
| 愛知大学 | 12 | 30 | 17 |
| 名古屋外国語大学 | 8 | 6 | 17 |
| 中京大学 | 14 | 18 | 14 |
| 愛知学院大学 | 19 | 14 | 12 |

**私立大学（関西）**

| 大学名 | 2002 | 2001 | 2000 |
|---|---|---|---|
| 立命館大学 | 35 | 35 | 42 |
| 関西学院大学 | 8 | 9 | 14 |
| 同志社大学 | 10 | 12 | 16 |
| 関西大学 | 2 | 6 | 6 |
| 関西外国語大学 | 4 | 3 | 5 |
| 近畿大学 | 5 | 5 | 4 |



随想

# 愛知淑徳、今と昔

高校英語科教諭
佐藤千城

愛知淑徳に就職したのは昭和46年、今から31年前の33歳の時でした。当時はまだ大学はなく（設置は昭和50年）、短大しかありませんでした。生徒もほとんど内部推薦で短大へ進学し、のんびりしたものでした。高Ⅲ最初の行事、遠足も大高緑地公園でソフトボールをするなど、遊びが中心でした。秋には奈良一泊旅行があり、旅館での一夜は生徒たちの友情を深める格好の場でした。

今の愛知淑徳は随分、様変わりしました。入学してくる生徒の国公立大への進学志望は6割を超え、内部推薦も4分の1にまで減少しました。生徒たちの進路も多様化し、不況の時代を反映して理系志望・資格志向が増えています。こういう状況にどう対処していくのか、学校の真価が問われています。

私学は父母の支持なしには存在できないことは今も昔も変わりません。父母の支持を得るには、学校も教師も時代とともに変わっていく必要があるのではないでしょうか。学校を変えていくには内部の力だけに頼るのではなく、広い世間も視野に入れながら、大胆な発想の転換が求められています。例えば、今はやりの他業種の社会人を教師として雇い入れ、教育現場を活性化し、授業を改革していく一方で、現場の教師には社会体験をしてもらうなど、できることは何でも取り入れる必要があります。

入試もペーパーテストだけで生徒を選抜するのではなく、私学だからできる偏差値に頼らない、一芸に秀でた生徒を別枠で入学させるなどの改革が必要です。個性豊かな生徒が教室にいるということは、他の生徒にいい影響を与えるはずです。生徒が互いに相手を認め合うのは、自分にはない個性に出会う時ではないでしょうか。

愛知淑徳が永遠であるためには、絶えず改革を怠らず、常に新たな前進をしていく必要があると思います。